

平成 24 年 9 月 4 日

江戸川区教育委員会
委員長吉野弘保 様

「江戸川区立日光林間学校の放射線測定を求める陳情」

陳情者

江戸川区立日光林間学校を運営するにあたり、子供たちの放射線被曝の低減を目指す指標として下記に上げる対策を実施頂けるよう求めます。

記

陳情の要旨

- 1、 区内の計測と同様に、高性能機種による 1 地点 2 種の高さで計測を実施すること。
- 2、 計測地点を施設に合わせて 10 地点以上に増やすこと。
- 3、 同じく校外学習で使用する区外施設の塩沢江戸川荘も含めて、定点観測し比較をすること。

陳情の理由

1. 日光林間学校に付いての放射線測定は、震災から 1 年 2 ヶ月も経った平成 24 年 5 月 17 日に、教育委員会学務課による個人用放射線測定器 DoseRAE 2 (ドーズレイ 2) での簡単な測定 1 回分が区のホームページ上で公開されているだけです。
2. 1 項で使用した DoseRAE 2 は、個人用電子放射線検出器であり、震災直後で線量計が不足していた時期と異なり、区は高性能な TS-172Bなどを保有しているこの時期に DoseRAE 2 による計測だけと不信感を招いています。
3. 比べて区内での放射線対応は、
 - (ア) 篠崎公園に東京都健康安全研究センターモニタリングポストがあります。
 - (イ) 平成 23 年 6 月 27、28 日と測定器が不足していた時期ですら、DoseRAE 2 により小・中学校、保育園、幼稚園、公園など 19 地点で高さ 5cm および 1m の計測がされています。
 - (ウ) 平成 23 年 12 月 5 日～8 日まで、高性能なシンチレーションサーベイメータ TCS-172B 日立アロカメディカル株式会社製での計測が地表面から 5cm 及び 1m の計測がされています。以上の様に、平成 23 年度に実施された 2 機種による区内の測定方法と比べても、林間学校での計測は、5 地点 1m の高さだけと非常に簡素な計測です。
4. 推測するに環境省のガイドラインに則り 5 地点の計測がされたと思いますが、東北

内陸部の福島市から、郡山、那須、日光へと、風向きにより起こされた高汚染地帯が広がっている事は多くの報道でご存知のはずです。最低限の5地点しか計測していなのは、子供達の使用する施設の安全性を確認するという意識が欠落しているからであり。その上、計測地点の見取り図なども無くて文字情報のみと、施設のどの場所を計測されたのか情報が不足しています。

5. 同地区で極めて近所に林間学校を所有している足立区では、平成24年5月25日、26日及び6月8日に、放射能の除染作業を実施完了している上に、除染作業実施前後の放射線量の変化を10地点において比較した物をホームページで公開しています。
全てにおいて江戸川区より敏速に行われています。
6. 世田谷区では、フクイチからの距離が日光よりも遠い群馬県川場村の区立施設へ移動教室を実施していますが、今春に施設を除染した上で実施しています。それでも半分近い不参加が出る学校も出ていたり、住民意思の差もありますが各自治体はいろいろと対応をされています。
7. そもそも日光市は『汚染状況重点調査地域』に指定され、当の日光市では小中学校、保育園、幼稚園計82施設が国の補助基準を関係無しに除染が開始されています。その他・子供達が長時間生活する施設・18歳以下の子供のいる世帯の住宅全て除染対象とまで言っています。
早いとはけして言えませんが、日光市が子供を中心として考え、動き出した事に比べ、江戸川区・区教育委員会の対応はあまりにも無策であります。

以上